

新政権が次々に打ち出す改革の中身には小気味よいものがある。空港特別会計の見直し、納税者番号の導入など、これまで長いことその必要性が言われていたにもかかわらず「抵抗勢力」に阻まれて手をつけられなかった案件である。ぜひとも実現してもらいたいものだ。ダム建設の凍結も、個々の案件については是非は別としても政権交代があったからこそでできる大胆な方向転換である。

ただ、新政権の行っている一連の政策を見て、景気の先行きに悪影響を及ぼすのではないかと不安を覚える人も少なくないはずだ。改革とは、これまで続い



伊藤元重の

ニュースな見方

てきたものを壊し、新しいものを作り上げる作業である。ダムや空港建設をやめる。

で子育て支援、農家への戸別所得補償、暫定税率の廃止などに回そうというの

打ち出した政策である。

子育て支援でも暫定税率

の廃止によるガソリン価格の末端価格の下落でも、ある程度景気刺激効果はあ

新政権のアキレスけん

は考えにくいし、また中長期の影響も不確定である。これに対して、現在です

に行いつつある公共事業を大胆にカットすることは、

世界経済の回復も遅いし、

一部には景気の二番底の予

景気についてあまり悲観的

るのではないかと不安を覚える人が多いのも当然で

な問題と同時にこなす

ことである。一方では、自

でなかなか

景気については総理がマクロ経済

現れないことになる。

経済は生き物である。特

は、改革についてのメッセ

が足りないのが気になる。最

進役が不在であることが気になる。

(東大大学院

経済学研究科教授)

マクロ経済の推進役不在